「それだけはダメ」

平野正喜

【あらすじ】

平尾（ひらお）は総務部の新入社員である。都内にある平尾のマンションで情事の後、小夜（さよ）と関係を持っている。小夜は「祖父の葬儀の為にママと札幌へ向かう」ことを告げ、自分のアパートに帰るが、帰り際に生理が遅れていることをほのめかす。平尾が慌てていると、札幌にいる幼馴染の次藤（じとう）からの電話があり、先輩の倉枕（くらまくら）の急死が伝えられる。倉枕の妻の実穂（みほ）も平尾の幼馴染で、16歳の時に平尾の子・五月（さつき）を生んでおり、東京に追い払われた平尾の代わりに実穂と五月を引き取ったのが倉枕だった。実穂からの電話で五月が家出していると知った平尾に、今度は小夜から「ママがマンションに向かっている」と知らせが。しかし、現れた女は五月と名乗り、小夜との関係解消を迫る。五月をママと呼ぶ小夜は平尾の孫なのか。実の孫と関係を持ったと苦悶する平尾。小夜が妊娠していたら子供は平尾の子であり、同時にひ孫ということになる。苦悶する平尾の元に小夜が戻って来て…。